

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190300065		
法人名	社会福祉法人中部福祉会		
事業所名	倉吉グループホームあずま園		
所在地	鳥取県倉吉市東巖城町472番地		
自己評価作成日	令和6年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3190300065-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響で制限がかかることもありますが、散歩に案内したり、外出行事を企画したり活動的に過ごして頂けるよう支援を行っています。また、毎月イベントを開催し、楽しみのある生活をして頂いています。
医療面では協力医の訪問診療が定期的にあります。利用者の体調変化にいち早く気づくことができ、利用者・家族様への負担軽減となっています。
記録や情報共有の手段をタブレットへと移行し、職員の業務負担の軽減を行っており、働きやすい環境を整えることでサービスの向上も図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が過ぎ、今年度は利用者みなさんで「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」日々が過ごせるよう、自然に触れ季節の移ろいを感じて頂けるような外出支援や活動が行われ、利用者の笑顔が沢山見られる様な支援が行えるよう職員は努めておられます。
利用者の日々の様子が分りやすくカラーで掲載された「あずま園いきいき倶楽部」を毎月作成し、家族に送付すると共に、利用者の日々の様子を細やかに連絡をされています。
また、看護師も勤務されており、協力医の訪問診療もあり、利用者・家屋の安心安全につながっています。
タブレット入力で日々の記録を残されることにより職員の事務時間の軽減に取組まれ、情報共有が行われています。
働きやすく風通しのよい職場環境を目指しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がいつでも確認できるよう掲示。出勤時に理念確認し、それから業務に入るようにしています。	理念は事務所内に掲示されており、いつでも確認できるようにされています。「楽しみながら」一人ひとりのその人らしい生活が送れるようホーム内での活動目標を話し合わせ、戸外でも過ごせるよう取組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策をとりながら運営推進会議を行っています。あずま園主催の理学療法士イベントを実施したり、地域と一緒に4年ぶりとなる防災祭りを開催できました。作品展にも参加させて頂きました。	中部地区の風水被害に見舞われた方たちの為のバザーを行われ義援金を集め送られました。公民館祭の作品展にも参加され、地域と共に歩むホームを目指しておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生職場体験、小学校絵本読み聞かせ、総合産業高校授業を実施し、『認知症』を知って頂く機会となりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催で事業所の取り組み・サービスなどの現状報告しています。参加者に助言を頂き、サービス向上に努めています。コロナの状況を見てとなりますが、対面での開催を実施できています。	運営推進会議の新しくメンバーになられた方が質問をされることにより、気付きがあり、初心に戻って意見を活かした運営に取組まれています。	会議毎にテーマを定め、メンバーも固定する事なく開催されても良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	倉吉市相談員派遣事業をお受けしています。オンラインを利用して倉吉市相談員に利用者様の様子を見て頂きながら相談し、助言を頂いてサービス向上に努めています。	倉吉市地域包括センターを中心とし、他のGHとの情報交換を兼ねた研修を行い、運営について検討する会が開催されており、継続して行えるよう取組まれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束排除の為の取り組みに関する研修を実施しています。外部研修へも参加し職員の理解を深めています。	身体拘束廃止委員会が法人内に設置されており、管理者が参加され、会議内容を職員に伝達されています。また、内部研修、外部研修にも参加され職員の身体拘束廃止の理解に努めておられます。日中は玄関の施錠はなく、夜間は防犯のために施錠されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者会議にて法人の高齢者虐待防止委員会を実施。上がった事項を職員会議で伝達・周知しています。また、内部研修の実施や外部研修を通して職員の理解を深めています。	法人に高齢者虐待防止委員会が設置されており、管理者が参加され、職員に伝達・周知されています。虐待の芽チェックリストを活用し振り返りも行われています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく、学習する必要があるのが現状。外部研修で学ぶ機会があれば参加していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り直接説明を行い(遠方等必要に応じて電話説明をした後、書面で説明)、同意を得るようにしています。不安や疑問点がないか必ず確認し、納得して頂いた上でサインを頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、園便りや月報を通じてご家族に様子をお伝えし、面会時や電話をした際に意見を伺うようにしています。また、運営推進会議にご家族へ参加して頂き、意見を反映するようにしています。	利用者には日々話を伺われています。毎月園だよりや月報を通じて家族に様子を伝えておられ、日頃から家族への連絡を細やかに取っておられるので、アンケート結果の満足度も高いです。プラン変更時にも意見を伺い、変更点も伝えられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している職員会議やユニット会議で職員の意見や提案を取り入れています。	毎月の職員会議やユニット会議で色々な意見等が出てきています。管理者は法人の管理者会議に参加し、職員よりの意見・要望を反映できるよう伝えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行っている。働きやすい環境に努め、何か希望等があれば一緒に考えていけるよう配慮しています。	管理者は、定期的に職員面談を行っており、日常的にも何か気になることがあれば、職員に声を掛け、個別に話す時間を持たれています。チームケアを心掛け働きやすく風通しの良い職場となるよう取組めれています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で内部研修を行っている。適切な知識を導入する為に外部の研修に参加している。障害者雇用については、外部のジョブコーチの協力を得ながら指導しています。	毎月の職員会議の際には内部研修が行われています。必要な外部研修、オンライン研修も受講しておられます。シフト調整をし、必要な研修にも参加されています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	希望の外部研修に参加できるようにしています。相互研修を通じて他のグループホームとの交流を行い、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談をしていて、ご本人の生活歴やこれからの要望や思いなどを出来るだけ聞き取るようにしている。そして言葉にならない気持ちを察していけるように傾聴するようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になり、困っている事・不安な事・問題になっている事などを明確にした上で信頼関係を構築しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族双方の意見を聞きながら、ニーズを聞き取り、どうしたらよいかを一緒に考えて、要望に沿える支援に繋がっています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の人としてその人を認め、また自身も受け入れて頂ける様、誠心誠意愛情を持った関わりをしています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ毎月の園便りや月報で様子を伝達し、面会時に共に絆を感じながら、関係作りを行っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々のお墓参りや自宅近所へのドライブしています。また、昔の思い出話や、これまでしてきた仕事の話などを会話に交えながら支援しています。	馴染みの人との面会や個々にお墓参り、自宅周辺へのドライブ等が行われており、昔の思い出話等をして頂く為のきっかけ作りにも繋がっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、スタッフが間に入り関係を取り持ったり、席を配慮し支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	色々な理由で退去された後も、相談があれば対応したり、次の支援先の関係者とも必要な相談や支援に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人寄り添う時間を持ち、傾聴しています。個別に合わせた支援を提供する為、ユニット会議で職員皆で支援の方向性を検討しています、小さな事でも情報共有できるようタブレット申し送りを活用しています。	職員は日々の生活の中で利用者とお話をする機会を持つ事で、できるだけ本人の希望・意向に沿えるようにしておられます。確認出来た内容は情報共有ができるようタブレットに記録されています。	何気ない会話の中から利用者の生きがいや生きる目標につなげて行けると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの開始前に、ご本人・ご家族からこれまでの生活歴や暮らし方の情報を聞き取り、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から現状の把握に努め、理学療法士とも連携を取りながら現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の意見、及び毎月実施しているユニット会議での意見を取り入れ、モニタリングも併せて利用者にとって一番良い計画を作成するよう努めています。	担当者中心の会議や毎月のユニット会議での他の職員も交え意見交換を行いながらモニタリングが行われています。家族からの意見も取り入れ、半年に1回介護計画の見直しが行われ、計画作成担当者が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子観察をし、記録に残しています。気づきや共有したいことは申し送りに挙げて、確実な情報共有を行っています。	毎日日々の様子を観察し、記録に残されています。情報共有が必要なことは、申し送りに書き込まれ確認されています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護職員だけでなく、理学療法士や看護師の多職種と連携し、臨機応変に対応できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	河川敷沿いに施設があり、散歩へご案内しています。すれ違う地域の方に挨拶し、交流を持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続、もしくは、移動等の負担のない訪問診療が可能な協力医をかかりつけにするか選んで頂いています。また、歯科に関しても協力医がおり、訪問診療して頂けます。	利用者・家族の希望するかかりつけ医を選択して頂いています。協力医は2週間に一度往診があります。往診のないかかりつけ医の場合、基本的には家族が対応されており、日頃の様子等情報提供が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職には日々の気付き・様子を細かく報告・相談を行い、医療面での適切なアドバイスをもらい、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院している病院の地域連携室と連絡をとり、退院にあたっての情報交換を行うようにしています。普段から病院との連携を密にとるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をするようにしています。また、重度となる前には家族と相談する機会を持ち、時には主治医を交え話し合いを重ねる事もあります。	契約時に終末期の対応について、ホームで対応できることできないことを伝え、家族と話し合い同意を得ておられます。重度化してきた場合には再度家族、医師、ホーム職員で今後の方針について話合われます。看取りの場合には、看取り計画が作成されます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応に関する研修、事故発生又は再発防止に関する研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合訓練(避難訓練・消火訓練・通報訓練を実施し、内1回は夜間想定)を行っています。また、年1回水害避難訓練も実施しています。	年2回避難訓練を行い、今年度は4年ぶりに地域の方々と一緒に防災祭りも行われました。BCPIは法人が今年度中に策定できるよう策定中です。食料品及び備品の備蓄も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の取り組みに関する研修を実施しています。また、接遇に関する研修へも参加しており、不適切な発言となつてしまつたことがあつても、面談し振り返ることのできる体制をとっています。	利用者の居室は個室になっており、プライバシーは守られています。排泄・入浴の場面でも人格を尊重した声掛けやケアを心掛けておられます。接遇研修も行い、不適切な発言があれば面談をされ、振り返られています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ケアに関する研修を実施しています。日頃からご利用者の声に耳を傾けるよう心がけており、気持ちを汲み取るようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、その日の体調を考慮して、希望に沿えるような過ごし方が出来る様に支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参されている衣類の中から季節にあつたものを提示し、ご自身で着たい物を選んでいただいています。汚れやほころびのない様に注意を払っています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回程度の割合で稲荷作りやお団子作りといったお料理作りを一緒に楽しんでいます。時々ではありますが、野菜の皮むきをお手伝い頂いたり、鍋を混ぜたりして頂いています。	できる方には食事の際に使うバットを拭いて頂いたり、それぞれの利用者の力に応じた手伝いをお願いしておられます。誕生日会もあり、みなさんと一緒に手作りのおやつも作られ、季節の感じられる行事食も提供され食事が楽しめるよう工夫されています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に合わせてお味噌汁を減塩にしています。食事が進まない方には栄養補助食品などを利用し、栄養バランスに努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っています。口腔衛生管理体制加算を実施しており、協力医の仲歯科医院の指導の下、口腔ケアを実施しています。	毎食後口腔ケアは個々に応じて行われており、義歯の方は就寝前に洗浄液に漬けて清潔保持されています。また口腔衛生管理体制加算を令和6年1月から実施され協力歯科医の指導のもと口腔ケアが実施されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表で排便コントロールを行うと共に、日々の記録を基に月1回のユニット会議にて排泄方法やパッド等の使用についての検討を行っています。	排便チェック表で排便リズムを把握され、記録を基に毎月のユニット会議で個々に応じた対応が行われています。就寝中も必要な方には定時に声掛けされます。最期までトイレで排泄して頂けるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分がきちんと摂れているか、職員が把握するようにしています。天気が良ければ外へ散歩、天気が悪ければ短い距離でも廊下を歩行し運動して頂くよう声掛けを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、無理強いせず、ご本人のタイミングに合わせて入浴を行っています。	基本的には週2回は入浴の日が設けられており、個々の状態に応じた対応が行われています。入浴拒否の方もありますがタイミングをずらしたり、担当者を変える等工夫をしながら入って頂けるよう努めておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、日中も休む時間を調整したり、室温管理を随時行っています。眠れない日には落ち着かれるまでリビングで付き添い・見守りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬表がすぐに確認できるようユニット内にファイルしてあります。薬表は常に最新の物に更新し、利用者様の状態把握に努めています。わからないことがあればすぐに主治医・看護師に確認をしています。	薬局から薬は分包され配達され、看護師がチェックし管理されています。薬の変更、容量の変更がある時は職員間で情報共有し、様子に変化がないか観察をされ、変化があればかかりつけ医に連絡し判断を仰がれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	決して無理強いせず、個々の出来る力を活かし役割を持って頂いています。又、やりたい事・やってみたい事等を聞いて提供したり、一緒に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あずま園周辺の散歩、人が密集する場所を避けてのドライブを行っています。海、紅葉、花を見に行ったりと四季を肌で感じて頂き、燕趙園といった施設へのドライブも実施できました。	できるだけ四季の移ろいを感じて頂けるよう、季節の花、紅葉や海を見に出掛けられました。お正月には初詣も行われ、感染症対策を行いながら、可能な限り外出支援を行い利用者の楽しみの場を提供されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の物品購入の時は施設側が立て替えにて購入。 現金の所持についてはご本人納得の上で施設が管理している方と、ご本人が管理されている場合があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族へは電話をかけていい時間をかくにんしており、ご利用者から希望のある際は、その時間に職員と一緒に電話をする体制をとっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・室内の明るさには気を配っています。四季を感じる事が出来るよう、季節に合わせた展示物・花を飾っています。また、ベランダでは花や野菜をご利用者と一緒に育てています。	ソファも置いてあり、それぞれがゆったりと過ごせるスペースが用意されています。季節感のある飾り付けや温度管理、採光にも気を付け利用者一人ひとりが居心地の良く過ごして頂けるような空間になるよう努めておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の様々なところにソファが置いてあり、散歩途中の休憩や話出来る空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みのあるものや好みの物を持参して頂き、落ち着ける空間作りをしています。ご家族の写真も飾らせて頂いています。	自宅で生活しているかのような利用者の部屋にして頂く為に使い慣れた物や気に入った物を持参して頂き心地良く生活できるようにして頂いています。動線に配慮されベッドの位置も個々に応じた位置にされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全バリアフリーで、手摺り完備。トイレの照明はセンサー、手洗いもセンサーで水が出るようになっており、安心安全な生活が出来るよう配慮しています。		